誇れる
ライフタウンへ

―岡本町政始動―

平成 27 年 12 月 11 日、
松前町の新しい舵取り役として、岡本靖町長が就任しました。
松前町を「誇れるライフタウン」へ。
岡本町政が始動します。

1 _職員などに拍手で迎えられ、初登庁する岡本町長　**2** _職員を前に、訓示を述べる　**3** _白石前町長から事務の引き継ぎを受け、クリーンな町政の継続を約束　**4** _「身の引き締まる思いです」 就任にあたり、メディアからの問いかけに答える岡本町長

岡本町政、始動―。

平成27年 12月11日

第17代松前町長が決定

任期満了に伴う松前町長選挙は11月29日、投票が行われ、即日開票の結果、第17代松前町長に岡本靖候補が決定しました。投票率は62．84％。前々回（平成19年＝48．90％。前回平成23年は無投票）を13．94％上回り、今後の町政を担う人を決める選挙に、多くの関心が集まったことがうかがえます。

12月11日、初登庁

多くの町民の期待を背負い、岡本町長は12月11日、初登庁しました。

役場で行われた就任式では、「職員の皆さんには、町民が主役であるという意識を持ってほしい。また、一人一人が各所属で政策の主体である認識を持って、考え、見定め、実行していってほしい。コスト意識も持ってください。一緒に、住みよい松前町をつくるため、いい仕事をしましょう」と訓示し、新たなまちづくりに向け、結束を呼び掛けました。

5つのまちづくり

岡本町長は選挙戦で、女性の能力を活用し安心して子どもを産み育てられる町、文化的でおしゃれな町を目指すことを訴え、支持を得ました。それらを含めた5つのまちづくりを中心に、岡本町政が始動します。

松前町長選挙 開票結果

当落	得票数	候補者名
当	8,327	岡本　靖
	7,290	住田　省三

無効 127 票

岡本靖　おかもと・やすし

出身　松前町北川原
生年月日　昭和28年1月23日（62歳）
経歴　県庁職員として出納局長や中予地方局長などを歴任。町監査委員を経て、今年の4月から10月までは、当町の副町長を務めた。
信念　「逃げない、ブレない」
趣味　詩吟、謡曲、大鼓（おおつづみ）、山歩き。中でも大鼓は、毎年、二の丸庭園で行われる「薪能」に出演中。

「誇れるライフタウン」を目指して

岡本町長が描くまちづくり。
その展望と、実現に向けた決意と抱負を聞きました。

―町長に就任するにあたって

白石前町長のまちづくりで、明るく活気のある町に生まれ変わった松前町を引き継ぐことになり、責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は、白石町政のクリーンなイメージを受け継ぎ、37年間の県庁での行政経験と県幹部職員との人脈を生かしながら、信条である「逃げない、ブレない」を忘れずに、皆さんと一緒に松前町をさらに成熟させていきたいと思っています。

選挙中、私の知名度はまだまだと感じました。だから、今後は全ての行事に顔を出して、積極的に町民の皆さんと触れ合うことで、自分のことを分かってもらいたいし、皆さんのことも知っていきたい―。そういったことが、これからの町政で宝物になっていくはずです。各大字を回り、直接町民の皆さんと話し合うタウンミーティングも、早く行いたいと考えています。

―目指すまちづくりは

「松前に住んでいる」と胸を張って言える、誇りに思ってもらえる、イメージのいい町にしたいと思っています。このような「誇れるライフタウン」の実現に向け、現在策定している第4次総合計画に独自の色合いをつけながら、5つのまちづくりを実行していきます。

―5つのまちづくり
①安全・安心なまちづくり

近い未来に発生すると予測される「南海・東南海地震」では、被害を抑え、命を守る備えをしていかなければなりません。町が行っている防災・減災対策を適宜見直し、必要な部分は肉付けをして実行していきます。

その他にも、皆さんの快適な生活に欠かせない上下水道の整備なども進めます。

②安心して子どもを生み、育てることができるまちづくり

子育て支援を充実させ、若いお母さん世代が住んでみたい、住んでよかったと思える町を目指します。

選挙中、「医療費は何とかならないのか」という声をたくさん聞きました。財政的な問題はありますが、前向きに検討していきたいと考えています。

保育施設の耐震化や統合整備については、既にスタートしている計画に、「通ってみたい」と思える建物のデザインにするといった視点も踏まえ、実行していきます。

③にぎわいと活力のあるまちづくり

地場産業や農水産業の振興を図るため、生産者の皆さんから話を聞いたり、県からノウハウを学ぶ機会をつくったりして、生産基盤の充実や担い手の育成・確保などを進めます。

現在、不定期に行っている物産展については、売って終わりではなく、その地域に卸しができるようルートを作っていきたいと考えています。

その他、駅前の整備により、にぎわいもつくっていきたいと思っています。

④みんなで支え合うまちづくり

町民と行政が責任と役割を分担し、対等な立場で連携し、補完し、協力し合う協働のまちづくりなどを進めます。

防災でよく使われる言葉ですが、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助、共助の姿勢を地域で持つことは、地域力を高める上で大切です。地域で一定の組織化ができたら、交付金を支給するなどの仕組みができたらと考えています。

⑤快適で、文化的で、おしゃれなまちづくり

これまで以上に住みやすいまちづくりを実現するため、松前町の特性を生かした景観の保全と創造を進めます。

先日、町民の人と「有明公園は宝」という話をしました。私も水辺空間が好きですし、そこで行われる伝統行事も守っていきたいと思っています。

「景観の創造」については、昔、伊賀元県知事が「生活文化県政」の政策を行う中で「文化予算」をつけていました。建物などを建てるときに、そのデザインを文化予算を使って行うわけです。ガードレールではなく、御影石を使って橋をつくるといった感じでね。もちろん財政的に余裕がなければできないことですが、少しずつ取り組んでいき、おしゃれさを出し、住んでみたい」と思える町にしたいと思います。

―力点はどこに置くのか

大きな問題は、「人口減少」だと考えています。そこで、「子育て支援」と「快適で、文化的で、おしゃれなまち」に力点を置いたまちづくりを進めます。

子どもを産んで、育ててくれる若い人たちが「住みたい」と思えるよう、子育て制度を充実させます。それだけでなく、住んでみたいと思う要素として、「快適で、文化的で、おしゃれなまち」という観点があると思っています。

そのため、女性特有の感性を町政に反映できるよう、女性の意見を聞く場を設け、女性の「子育て」や「おしゃれさ」の考えを生かしたまちづくりを進めたいと考えています。

―最後に

これらのまちづくりは、町民の皆さんの声を聞きながら、肉付けを行います。そして、誇れるライフタウンの実現に向け、「納得」してもらえる町政を進めます。一緒に、誇れるライフタウンをつくっていきましょう。